

野口健

総社市環境観光大使



鬼ノ城で 清掃登山ができれば

野口健（のぐち けん）
アルピニスト。昭和48年生まれ。平成11年、エベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰の世界最年少登頂記録を25歳で樹立した。平成12年、エベレストや富士山での清掃登山を開始。以後、小・中学生を対象にした「野口健・環境学校」の開設や、氷河の融解防止に向けた対策に力を入れるなど、積極的に環境問題への取り組みを行っている。

環境観光大使に委嘱

5月25日、市民会館で開かれた環境を考える集いのなかで、アルピニストの野口健さんを総社市環境観光大使に委嘱しました。

「総社市を環境と観光の両面から全国にPRをお願いしたい」。このメッセージとともに、片岡市長から委嘱状が手渡されました。環境観光大使は、今年創設されたもので、野口さんが初の委嘱者。無報酬で、任期はありません。「環境と観光をセットにした取り組みはむずかしい面もあるが、富士山でやってきたような清掃活動を鬼ノ城でもできれば」と、野口さんは話しました。



講演する野口健さん

ヒマラヤを 富士山にするのか

「富士山から日本を変える」と題し、野口さんは次のように講演しました。

「ヒマラヤを富士山にするのか」。外国人登山家から、日本人登山家のゴミに対するマナーの悪さを指摘されました。確かに、エベレストには日本のゴミがたくさんありました。3度目の正直でエベレストの登頂に成功した後、4回行けばゴミの回収ができるだろうと清掃登山を決意しました。

ゴミは80000m付近に多く、降ろすだけでもたいへんな作業です。また、体を高地に順応させながら登るため、丸々2か月かかります。下山後は、下血するほど体調が絶不調になります。それが原因で、清掃登山の仲間（シエルパ）3人の命が失われました。

この死を機にエベレストを徹底的にきれいにしたい、リスクを背負ってやることもあるという思いが強くなりました。自分たちがやることで、エベレストがきれいな山に変わっていくと信じて取り組

みました。

富士山も近づいてみると汚れていて、日本の現状とダブって見えました。美しい富士山を守るため、やらなければいけない、清掃活動を始めたのです。最初は1000人でしたが、今では6000人になりました。人が集まるというのはすごいことだと思います。観光客もごみを拾うようになり、五合目から上はごみはなくなりました。最後に、地元で愛されている所はきれいです。まず、自分たちでやる、そして、自分には何ができるかを考えてみてほしいです。

問い合わせ 環境課ごみ対策係
☎083338



富士山で清掃活動に取り組む野口健さん ©野口健事務所提供

研究発表 ホテルに学ぶ地域の環境

環境を考える集いで、昭和小学校の宗澤樹教諭が「ホテルに学ぶ地域の環境」と題して研究発表をしました。



ホテルを調べることで、ホテル新聞を作ったこと、槻地区のホテルまつりに参加したことなどを通じて、地域の人々がホテルを大切にしていることを子どもたちは知りました。そして、昭和地区のホテルを守ろうという気持ちをもつようになり、川や土をきれいにし、自然を大切にしようとするようにもなりました。子どもたちには、いろいろな方法で自分たちの住むまちを大切にしたいと思っています。